

- BOSAI -

都市コミュニティ研究室 防災コラム

防災の取組を...と言われていても、どこから取り組んでよいものか。どんな取り組みがあるのかを共有するための防災コラムを始めました。月1回ペースで発行予定です。よろしくお願いします。



幅広い世代が楽しめる新しい防災活動

都市コミュニティ研究室 研究員 多田裕亮

毎年行っている防災訓練の内容が同じだと、参加者もいつものメンバーになってしまいがち。そしてそのいつもの参加者から「どうせまた同じ内容の訓練やろ」と言われてしまい、どんどん担い手の確保が難しくなってしまう。そんな負のスパイラルから抜け出す新たな防災活動の可能性を知ってもらえたらと「防災ロゲイニング」を提案しました。

ロゲイニングとは各地に設定されたチェックポイントを制限時間内にできるだけ多く回り、獲得したポイントの合計得

点を競うスポーツです。そのチェックポイントを避難場所や過去の災害を伝える記念碑などにし、ゲーム感覚で防災について学べる機会になるように工夫しました。

ロゲイニングの準備は少なくとも数十ヶ所のチェックポイントを選定し、その場の写真を用意し、ゲームバランスを考慮しつつ適切なポイント数を割り振る必要があります。新しい形での防災活動を探している地域活動協議会に、この防災ロゲイニングを地域の防災学習会として位置付けてもらい、ロゲイニングのチェックポイント選定などに参画していただきました。

ロゲイニング本番は地域防災実習に来た大阪経済大学の学生と地域住民が参加し、それぞれがグループに分かれてチェックポイントを回りました。

今回は「津波避難ビル」のピクトグラムを発見するごとにポイントが入る特別ルールを設け、いざという時に避難すべき場所はどこなのか把握してもらおうと企画していました。しかし、避難場所のピクトグラムは複数あり、違うピクトグラムを津波避難ビルと勘違いするなど思ったように得点が上がらない、何回も探しに行かないといけないチームもありました。防災アプリを入れていたチームが効率よく回っていたということもあり、情報を知っておく大切さを感じたようです。またポイント選定に関わっていなかった地域住民からは、過去の災害遺構や記念碑もチェックポイントにしていたことから、自身の校区から出ればまだ知らない場所がたくさんあるということを実感され、新たな気づきを得たようです。

南海トラフ巨大地震後の津波によって浸水が想定される湾岸8区は、津波の被害が軽微であった他区へ避難する二次避難計画が策定され、歩行訓練が始まっています。湾岸区から津波の被害がないところまで歩くとなると、普段から長距離の歩行に慣れておく必要がありますが、基本歩いて移動するロゲイニングは「長距離を歩く」ことへの抵抗感を薄らせたようで、後日、歩行訓練を提案した地域で「ロゲイニングより短いならば」と受け入れてもらうことができました。

防災ロゲイニングは幅広い世代がそれぞれの視点で楽しみながら参加できるものだということがわかりました。今回は、区単位で行いましたが、今後は、地活協単位での開催や、独自ルールを取り入れた新たな取り組み方を作るなど、活用の幅を広げていくことを目指しています。あなたの地域でもやってみませんか？